|  |
| --- |
| **医療安全　Medical Safety** |

|  |  |
| --- | --- |
| 単位数 |  |
| 1 |

|  |  |
| --- | --- |
| 時間数 |  |
| 15時間 |

|  |  |
| --- | --- |
| 授業回数 |  |
| 8回 |

|  |  |
| --- | --- |
| 授業形態 |  |
| 講義 |

|  |  |
| --- | --- |
| 授業概要 |  |
| 医療安全における基本的な知識、看護職の責務と役割について学習する。また、医療現場における危険の予知と回避、事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 到達目標 |  |
| ・医療安全の基本的な知識とは何かを説明できる。・看護業務の範囲と責任について説明できる。・ヒューマンエラーの知識を生かした事故防止策について説明できる。・事故報告の意味と必要性について説明できる。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 授業スケジュール |  |
| 第1回　医療安全と看護の理念第2回　医療安全への取り組みと医療の質の評価第3回　事故発生のメカニズムとリスクマネジメント／チームで取り組む安全文化の醸成第4回　看護業務に関連する事故と安全対策①第5回　看護業務に関連する事故と安全対策②第6回　在宅看護における医療事故と安全対策／医療従事者の安全を脅かすリスクと対策第7回　看護学生の実習と安全第8回　演習、まとめ |

|  |  |
| --- | --- |
| 授業計画案 |  |
| 別紙 |

|  |  |
| --- | --- |
| 授業時間外の学習 |  |
| 日常のヒューマンエラー、臨地実習での経験を基にした事前課題に取り組んでから授業に参加する。予習ではテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。復習ではテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 教科書 |  |
| ナーシング･グラフィカ　看護の統合と実践②医療安全　松下 由美子・杉山 良子・小林 美雪編、株式会社メディカ出版 |

|  |  |
| --- | --- |
| 参考書 |  |
| ・ナーシング･グラフィカ　基礎看護学①看護学概論　志自岐 康子・松尾 ミヨ子・習田 明裕編　株式会社メディカ出版・ナーシング･グラフィカ　基礎看護学③基礎看護技術　志自岐 康子・松尾 ミヨ子・習田 明裕・金　壽子編　株式会社メディカ出版・ナーシング･グラフィカ　看護の統合と実践①看護管理　吉田 千文・志田 京子・手島　恵・武村 雪絵編　株式会社メディカ出版・ナースのための危険予知トレーニングテキスト　杉山 良子著　株式会社メディカ出版 |

**看護の統合と実践②　医療安全　授業計画案**

**単位：1単位（15時間　8コマ）／授業形態：講義**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **回** | **学習項目** | **学習目標** | **講義の工夫・留意点****評価の視点・方法** |
| １ | 医療安全と看護の理念p.11-32**【関連動画】****・医行為と看護行為　p.25****・看護師の特定行為　p.30** | ・医療安全を学ぶ意味とその重要性について説明できる。・医療安全の考え方の変化について説明できる。・医療安全に関する基本的な用語を説明できる。・看護倫理、看護師の法的規定について説明できる。 | 【講義の工夫・留意点】・学生の医療事故への不安感が増強しないように留意して講義を進める。・医療安全の考え方の変化、医療安全を推進するためのさまざまな取り組みの経緯と発展、その中での看護職の役割と責務について説明する。・看護師の法的規定について、看護業務の変遷を踏まえて説明する。・特定行為について、今後の方向性も踏まえて説明する。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。・知識の定着の他に、看護職を志す者としての医療安全への積極的な姿勢、関心が涵養されつつあるかをレポートなどによって評価する。 |
| ２ | 医療安全への取り組みと医療の質の評価p.33-72**【関連動画】****・看護記録の開示と訂正　p.60** | ・国の医療安全対策の考え方を説明できる。・医療法における医療安全対策の概略がわかる。・看護職能団体の医療安全への取り組みがわかる。・医療事故の報告制度と事故を報告する目的について説明できる。・医療の質の評価の必要性について説明できる。【学習項目】・国の医療安全への取り組み（p.34-45）・看護職能団体の取り組み（p.45-52）・医療事故の定義と分類（p.53-54）・医療安全管理者の役割（p.55-58）・医療事故への対応（p.59-62）・医療事故の被害者（患者）・家族に寄り添ったケア（p.63-65）・医療事故の患者家族から看護学生へ向けたメッセージ（p.66-67）・医療事故の報告制度（p.67-70）・医療の質の評価（p.70-71）　など | 【講義の工夫・留意点】・事前課題：臨地実習施設で行われていた医療安全対策について列挙する。・事前課題でまとめた内容を数人のグループで紹介しあう。・身近な臨地実習施設における医療安全体制や日ごろの取り組みについて説明する。これらの取り組みが、国の医療安全施策にのっとったものであることを説明する。・webサイトで国や看護職能団体の取り組みについて検索し、検索結果をまとめて報告させる。・医療の質の評価にはどのようなものがあり、なぜ医療の質の評価が必要かを説明する。・医療事故発生時の対応と患者・家族、事故を起こした医療者へのケアについて考える。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
| ３ | 事故発生のメカニズムとリスクマネジメントp.73-110 | ・ヒューマンエラーのメカニズムを、人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係で説明できる。・事故には時間軸に沿った事象の連鎖、因果関係に沿った背後要因の連鎖の構造があることを説明できる。・事故分析の考え方と具体的な方法について説明できる。・エラーが起こりにくいしくみをつくるためには、具体的に何をすべきかを説明できる。・体系づけられたエラー対策の考え方（エラー対策の発想手順）を説明できる。・安全文化とは何かを説明できる。・インシデント報告の意味と必要性を説明できる。 | 【講義の工夫・留意点】・事前課題：第3章1節「事故発生のメカニズム」（P.74-86）を読み、自分の日常にひそむヒューマンエラーとその要因（原因）を考え、対策を立てる。・事前課題でまとめた内容を数人に発表してもらう。・身近な事故事例について、PｍSHELL、4M-4Eなどによる定性分析の方法を説明する。その際、表面的な事故分析では真の再発防止策につながらないことを丁寧に説明する。・インシデント報告の意味、必要性、条件について説明し、実習中に体験するインシデント報告について意識付けを図る。・掲載事例を活用し、学生自身が考えられるよう促す。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
|  | チームで取り組む安全文化の醸成p.111-124 | ・なぜチームとしての協働が必要か説明できる。・チームとしての協働を実践するために必要なことを説明できる。・チームSTEPPSとは何かを説明できる。 | 【講義の工夫・留意点】・事前課題：実習施設で行われている、チームで協働するための取り組みを列挙する。・事前課題で挙げた内容を小グループで話し合う。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
| ４・５ | 看護業務に関連する事故と安全対策p.125-175**【関連動画】****・点滴静脈内注射　p.130****・経口与薬　p.137****・患者確認　p.142****・針刺し事故防止　p.144****・転倒転落防止策①　p.154****・転倒転落防止策②　p.154****・呼吸と嚥下　p.156****・医療事故対策適合品　p.161****・アラームが鳴ったときの対処法　p.163****・輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い　p.163** | ・看護業務を行う際の環境の特徴とリスクを説明できる。・プロセス型の事故と非プロセス型の事故について説明できる。・看護業務に関わる主な医療事故の種類を述べることができる。・看護業務に関わる主な医療事故の背景、要因、対策について説明できる。【学習項目】・誤薬（p.129-139）・患者取り違え（誤認）（p.142-143）・針刺し（p.143-145）・転倒転落（p.145-155）・誤嚥（p.155-156）・異物遺残（p.156-157）・皮膚障害（p.158-160）・医療機器のトラブル（p.160-166）・検査・処置時のトラブル（p.166-167）・チューブ類のトラブル（p.167-173）・電子カルテ等情報伝達時のトラブル（p.174）　など | 【講義の工夫・留意点】・事前課題：日本の医療事故の記事から看護師が関わった事例を一つ取り上げ、その原因、経緯、結果、対策についてまとめる。・事前課題で取り上げた事例について話し合い、リスクとそれを回避する方法を検討する。・関連動画を活用する。・掲載事例を活用し、学生自身が考えられるよう促す。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
| ６ | 在宅看護における医療事故と安全対策p.177-197**【関連動画】****・住宅改修の一例　p.185****・高齢者の住環境整備　p.185****・介護ベッドでの事故　p.186****・福祉現場で働く看護職　p.192** | ・在宅看護を取り巻く、超高齢社会にあわせた制度を説明できる。・年齢問わず医療依存度の高い療養者が増えている中で、訪問看護におけるリスク管理をどうやって行うかを説明できる。・在宅看護で起こりうる医療事故の特徴について説明できる。・在宅看護で起こりうる医療事故の実際と防止策について、病院内との違い、在宅ならではの特徴を中心に説明できる。・高齢者施設、介護施設における安全対策について説明できる。 | 【講義の工夫・留意点】・事前課題：在宅で起こりうる事故にはどのようなものがあるか、その理由を考える。・事前課題で挙げた内容をグループで話し合う。・病院内での医療事故との違いを明らかにして説明する。・関連動画を活用する。・掲載事例を活用し、学生自身が考えられるよう促す。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
| 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策p.199-224**【関連動画】****・感染症～冷静な対応のために　p.204****・手洗い　p.204****・滅菌手袋の着脱　p.205****・感染性廃棄物の処理　p.210****・ガウンテクニック　p.215** | ・感染の危険を伴う病原体への曝露とその予防策について説明できる。・医療機器に関わる危険とその予防策について説明できる。・医薬品・医療品への曝露とその予防策について説明できる。・労働形態、作業に伴う業務への影響とその予防策について説明できる。・患者、同僚および第三者による暴力、ハラスメントとその対策について説明できる。【学習項目】・職業感染（p.200-202）・標準予防策（スタンダードプリコーション）（p.203-205）・感染経路別予防策（p.206-207）・廃棄物の適切な取り扱い（p.208-210）・電離放射線（p.210-211）・殺菌用紫外線（p.211-212）・ラテックスアレルギー（p.212-213）・医療品への曝露（抗がん薬、消毒薬、有機溶剤など）（p.213-217）・労働形態、作業に伴うもの（生体リズムの乱れ、腰痛）（p.217-220）・暴力（パワーハラスメント、暴言、モラルハラスメント、セクシュアルハラスメント）（p.221-223）　など | 【講義の工夫・留意点】・事前課題：本文を読み、実習施設で遭った医療従事者の安全を脅かすリスクとその対策を挙げる。・事前課題で挙げた内容をグループで話し合う。・関連動画を活用する。・具体的事例を提示し、イメージできるようにする。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
| ７ | 看護学生の実習と安全p.225-255**【関連動画】****・過失と結果予見義務　p.226****・KYTの実際～事故予防のために～　p.229****・実習前に知っておきたいチェックポイント　p.234****・シミュレーション学習　p.237** | ・実習中の事故に関する法的責任について説明できる。・実習中の事故への備え（補償）について説明できる。・実習中の事故を予防するための方法を説明できる。・卒業までに習得すべき看護技術のうち、重大なリスクが予測される項目についての安全策を説明できる。 | 【講義の工夫・留意点】・事前学習：すでに学んだ看護技術（注射、患者の移送、導尿、清拭・洗髪、足浴、食事援助など）の中から1項目を選んで、それを安全に行うためのチェックリストを作成する。・関連動画を活用する。・学生が実習中に起こしたインシデント・アクシデント事例を活用し、学生自身が自分の問題として考えられるよう促す。個人が特定されないように加工する。【評価の視点・方法】・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |
| ８ | 演習、まとめ　p.228-253**【関連動画】****・KYTの実際～事故予防のために～　p.229****・シミュレーション学習　p.237** | ・看護実践に潜む危険性を判断し、危険を回避するための方策を修得できる。 | 【講義の工夫・留意点】・実習中に学生が遭遇しやすい事故事例を教材として用いる。・紙面上の事例よりも、映像や事故場面の再現などの現実的な教材を用いて、学生の発想や理解を高めるようにする。・グループワークの内容を全体で報告し合うことにより、危険要因や安全対策に対する気付きを高めるようにする。・関連動画を活用する。【評価の視点・方法】・実際にKYTやロールプレイを行い、フィードバックする。­・知識の定着を図るため、小テストの実施や、レポートの提出などを課題とする。 |